

## 第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

総合的な学習の時間研究室

### 1. 単元名「M町の環境問題にトライ！」

### 2. 目標

- ・ M校区の環境について自分の課題を見つけ、環境調査や調べ学習などの自分の追究活動を通して、課題を解決していくことができる。
- ・ M町は環境に優しい町と言えるかというテーマについて、自分の考えを持ち、明確に相手に伝えることができる。
- ・ M校区の環境を守るために自分にできることを考え、自分の生き方について考えることができる。

### 3. 指導観

- 本学級の児童は学習意欲が高い児童が多いが、意欲が低く教師の指示がないと自分から主体的に活動に取り組むことができない児童もあり、その差が大きい。しかし、体験活動や調査活動など実際に体を動かして見聞きすることを好み、そのような活動では意欲を持って行うことができる。

児童は一学期に「めざせ健康！おやつ調査隊！！」というテーマで総合学習に取り組んでいる。その中で自分の課題を見つけ、カロリーや塩分や糖分について調べ、自分の食生活を見直しながら学習を進めることができた。また、インターネットや本やアンケートなどの課題の調べ方を工夫しながら追究することもできた。しかし、さぐる段階において、意欲を持って主体的に追究する児童が多い一方、意欲が持続せず何をしたいのか分からないといった様子の児童が見られた。また広げる段階で自分の調べたことを発表する場面では、相手により正確に伝えようと意識しながら声の大きさを考えたり、発表の方法を工夫することがまだ十分であるとは言えない児童も多く見られた。

- 児童を取り巻く社会は近代化が図られ、物があふれている。近代化の影響から騒音問題・水質汚濁・ゴミ問題・大気汚染などの問題が起こり、それらの問題は未来の環境に重大な影響をおよぼすものと考えられる。児童も地球温暖化や森林の伐採などの環境問題については少しではあるが理解している。しかし、理解の程度には差があり、それらの環境問題を自分の生活と結びつけて考えられている児童は少ない。

そこで、この単元を学習することは、校区の環境問題に目を向け、自分が何気なくしていることでも積み積み積もれば、大きな環境問題につながるということを捉えるよい機会になると考える。また自分の生活と環境とのつながりに気づき、自分の生き方を考えることができると思う。

- 児童の意欲を持続させるために、学習過程の各段階で次の5つの手立てをとる。

一つ目に、出会う段階で教科との関連を図る。社会科の北九州見学では自動車工場やせっけん工場に行き、働く人たちが環境に優しい製品を作ることをめざして仕事をしていることを学んだ。また、国語科「人と『もの』との考え方」では、「環境問題とは何か」に

ついて考える学習を行った。出会う段階で教科との関連を図ることで児童は環境問題に興味を持ち、本単元で自分の住んでいる校区に目を向けて環境調査をしていこうと学習をつなげることは児童の意欲を持続させることができると考えた。(手立て1-⑤)

二つ目は、出会う段階でウェビングの手法を用いて「環境問題」という言葉からつながることを想像しイメージマップにする。それによって、調査の視点を見つけ単元の見通しを持つことができると考える。(手立て1-⑥)

三つ目は、つかむ・さぐる段階で一人一人が身近なところから問題意識を持つことができるように、個々のこだわりに応じた追究可能な環境調査の場を段階的に取り入れる。つまり、環境調査①(課題をつかむ)→環境調査②(課題別グループで課題を追究する)→環境調査③(課題を再度追究する)というように調査活動を3回取り入れることで、児童の追究意欲を持続させ、活動が発展するように支援していきたい。(手立て3-②)

四つ目は、さぐる段階でワークシートを作成し、個に応じた支援を行う。毎時間「今日自分がすること」を明らかにすることで意欲が持続するようにする(手立て3-③)

五つ目は、広げる・生かす段階で、「M町環境子ども会議」を行い「環境を守るために自分にできることは何か」について話し合うことで、学んだことを日常生活の中で継続できるようにする。個々に違う活動を計画すると考えられるが、学習ではせっけん工場で環境に優しいせっけん作りが行われていたことから全員で手作りの環境に優しいせっけん作りに取り組む。(手立て4-④)

#### 4. 単元計画 (27時間)

段階	主な学習活動と内容	教師の支援	配時
出 会 う ⑤	1, 「M町の環境問題にトライ」の学習で身に付けたい力について考え、「環境問題」という言葉からイメージマップを作る。	○ ウェビングの手法を用いて、単元について考えられるようにする	1
	2, イメージマップを発表し、校区の調査に行くときの視点を考える。(ゴミ・水質・緑・空気・騒音・人の取り組み・自動販売機・交通量)	○ 環境問題に対するイメージを発表することで調査の視点を持たせる。	2
	3, 単元名から単元の見通しを持ち、「M町は環境に優しい町だろうか」というテーマについて自分の考えを書く。	○ テーマに対するはじめの自分の考えを書かせ、自分の考えの書き方を学ばせる。	1
つ か む	4, 校区をグループに分かれて調査する。	○ 担任が各地点に立ち安全面に配慮する。	2
	5, 調査結果を発表し、自分の追究する	○ ポートフォリオで評価し個に応	1

③	課題をつかむ。	じた指導を行う。	
さ ぐ る	6, 課題を追究する調査計画を立てる。	○ 学習の見通しを持たせゴールを明らかにすることで追究意欲を持続させる。	1
⑬	7, 課題別のグループに分かれて環境調査①を行う。	○ 騒音計など調査に必要な器具を用意し、意欲が持続するように調査活動をさせる。	2
	8, 校区の環境の環境調査②を行う。		2
	9, 課題別グループの発表の準備を行う。	○ 調べたことをまとめ、発表する方法を示す。	5
	10, 校区の環境調査の報告を発表し合い自分の考えを持つ。	○ 発表を効果的に伝える方法を示す。	5
	11, 「M町環境子ども会議」を開く。	○ 環境調査の結果が想起できるようにした資料を掲示しておく。	1 本 時
広 げ る 生 か す ③	12, 活動を振り返り、「自分たちできることは何か」話し合い、環境に優しいせっけん作りを行う。	○ 北九州見学のせっけん工場で学んだ環境に優しいせっけん作りを振り返りせっけん作りを行う。	3

5, 本時 平成 19 年 11 月 1 日(木) 5 校時

#### 6, 本時の目標

- 「M 町環境子ども会議」を通して、環境問題を自分の生活につなげて考えることができる。
- 「M町環境子ども会議」の中で、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、根拠をもとに表現したりすることができる。

## 7, 本時の考え方

前時までに、児童は騒音・空気・水・ゴミ・緑・交通量・校区の人の取り組み・自動販売機のグループ別調査報告を聞き校区の環境について考えてきている。そして、自分なりに「M町は環境に優しいのだろうか」というテーマについて発表資料をもとに自分の最終的な考えを書いている。

本時は前時で書いたテーマについての自分の考えを発表しあう「M町環境子ども会議」を開く。「M町環境子ども会議」では自分の考えを根拠をもとに表現したり、友達のを自分の考えと比べながら聞いたりして、校区の環境について考えていく。その際、今までの環境調査の結果が想起できるように作成した資料を掲示しておき、自分の考えを資料を根拠に話せるようにしておく。また、友達の考えと比べながら発表したり、学習内容をつなげて発表したりしている児童を賞賛し、環境問題を自分たちの問題としてとらえられるようにしたい。

最後に、「M町がもっと環境に優しい町になるために自分たちにできることはないか」を話し合い、これからの自分の生活に生かしていこうとする気持ちを高めていくようにしたい。

## 8, 展開

配時	主な学習活動と内容	教師の支援
⑤	1, 本時のめあてをつかむ。	○ 今までの環境調査の結果が想起できるように作成した資料を掲示しておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           「M町環境子ども会議」を開いて、校区の環境について考え自分たちにできることを話し合おう、         </div>		
⑩	2, 「M町環境子ども会議」を開く <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを根拠をもとに発表したり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりする。</li> <li>・友達の考えと比べながら発表したり、学習内容をつなげて発表したりしたりする。</li> </ul>	○ 友達の考えと比べながら発表したり、学習内容をつなげて発表したりしている児童を賞賛する。
⑤	3, M町がもっと環境に優しい町になるために自分たちにできることは何かを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時にゴミ拾いをするといいな</li> <li>・今は家でリサイクルをしていないのでやってみようかな</li> </ul>	○ ワークシートを用意し書き込めるようにする。 ○ 机間指導を行い個別指導を行う。

<p>・電気の節約のために電気のつけっぱなしに気をつけたい</p> <p>⑩ 4, 校区がもっと環境に優しい町になるために自分にできることをグループで話し合い発表する。</p> <p>⑤ 5, 「M町環境子ども会議」を振り返り本時のまとめを行う。</p>	<p>○ 一つにまとめて取り組みを決定していくのではなく、ぼくのわたしの環境宣言としていろいろな考えが出るようにする。</p> <p>○ 具体的に今からでもできそうなことを考える。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------